

# 読賣新聞

2010年(平成22年)

10月21日 木曜日

富士川河口断層帯  
M8級の確率18%

11%から上方修正

政府の地震調査研究推進本部は20日、静岡県東部の「富士川河口断層帯」が今後30年以内にマグニチュード(M)8クラスの巨大地震を起こす確率を、従来の最大11%から最大18%に見直した。

この断層帯は静岡県東部を南北に走って駿河湾の海底に達し、その長さは約26キロ。同本部が行った1998年の長期評価では、M8クラスの地震を1500年程度の間隔で引き起こす断層帯であることを前提としていた。ところが近年の調査で、この断層帯が、より短い100年単位の周期で地震を繰り返す「海溝型地震」と連動する可能性が高まったため、発生確率を上方修正した。